

## 検証保育・検証授業2 古屋誠一教諭（南風原町立南星中学校）

去る7月6日(月)に、前期教育研究員の古屋誠一教諭の検証授業を南風原町立南星中学校で行ないました。

日常生活の中で起こりうることを課題として設定し、これに対する生徒の「問い」から、めあてを持たせて、課題解決へと導く、生徒主体の授業が展開されました。研究員以外にも南星中学校の職員を初め、琉球大学の学生さんが授業参観を行いました。

指導講師の湯澤秀文氏(琉球大学教育学部講師)からは、「古屋先生の研究は、従来の学力観や数学観を180°変える新しい試みで有り、それに果敢にチャレンジしているのが検証授業の中で観ることができました。ただ、課題設定において、新しい文字での立式、等号の左右で文字式があり移項が必要なことなど、子ども達の立場に立つと、新しいチャレンジが多く有り、戸惑ってしまうことがあったので、立式が目的ではないので、式を教師が提案しても良かったのではないのでしょうか。子ども達の「問い」はライブ感覚でその場で拾い上げて、皆に広げることが望ましいと思います。子どもの発言や「問い」の表出したものだけでなく、その裏にある数学的な本質を明らかにする教師の「問い」が必要だと思えます。」との指導助言がありました。

検証授業研究会の中では、問いの出やすくなる問題設定のあり方と、子どもどの「問い」を拾い上げて授業展開へと生かしていくのか等が課題として挙げられました。これらの課題を踏まえ、検証のまとめ等を行います。

## 【研究テーマ】

〈中学校数学〉

### 生徒が主体的に学習する態度を育てる指導の工夫 ～生徒の「問い」を活かした問題解決の授業を通して～

## 【研究仮説】

生徒に「問い」を持たせる問題設定の工夫や、生徒に目的意識を持たせるために、生徒とともにめあてを設定するための「発問」を工夫することで、生徒の主体的に学習に取り組む態度を育てることができるであろう。



写真1 検証授業の様子



写真2 検証授業研究会の様子



写真3 南星中学校にて

### 検証授業を終えて（古屋誠一教諭）

今日の検証授業では、課題設定の難しさを実感しました。生徒になって（生徒の立場になって）考えることは難しいと思いました。でも、その視点を持つとすることで授業は少しずつ変わっていくと思っています。

今日の授業で、生徒の感想の中に、「楽しく解けたし、考えるのも楽しかったので、頭に今日の授業がはいりました」とありました。この感想を読んだときに、とても嬉しく思いました。生徒とつくりあげる授業を継続することで、このような生徒が増えていくと思います。

まだ、検証授業があるので、楽しいと思ってくれる生徒が増えるように頑張りたいです。